

タダシの用法

高 市 弘 子

1 先行研究と問題点

接続詞タダとタダシは、次の(1)(1')のようにどちらとも使えそうな場合がある。

- (1) 人が1日で読む本に3日かかる。数学はまったくダメ。ほとんどの運動がダメ。
ただし、映画となると目の色が変わり、のどを鳴らしてじゃれる猫そっくり。映画の仕事で働いて、その映画の会社から爪(つめ)のアカほどの給料をもらえればいい、と中学生のころから覚悟した。(朝日980101)

- (1') ただ、映画となると目の色が変わり、のどを鳴らしてじゃれる猫そっくり。

しかしながら、次の(2)はタダシには置き換えにくい。

- (2) 社：悪気はなかったんだよ、ごめんよ
博：分ってますよ
つ：さくらちゃん、御飯にしよう
社：ただタ刊見てびっくりしたもんだからさ、虎を飼うなんてねだいたい無責任だよ
竜：おい、しつこいんじゃないか、お前(寅さ)
(2') *社：ただしタ刊見てびっくりしたもんだからさ、虎を飼うなんてねだいたい無責任だよ

また、(3)と(4)はタダには置き換えられない。

- (3) 店員募集。ただし高卒以上の男性。(基礎)
(3') *店員募集。ただ高卒以上の男性。
(4) 「おれは特定のチームに肩入れしない。頑張っているチームが好き。
ただし、ブラジル以外」
ーなぜブラジル以外？
「ペラペラ…」(恥ずかしながら、なにぶん英語なのでよく分からなかった。
まあ、「アンチ巨人」と同じようなことのようにだ(産経980222)
(4') *ただ、ブラジル以外」

このうち、(2)は、タダシに置き換えにくいといった程度であるが、(3)と(4)は、タダに置き換えることができない。これは何故だろうか。

また田中章夫(1984)は、タダやタダシの意味用法について、「説明や条件を補足する意味で用いられるもので、文末に、必ずしも特定な言いおさめを求めない」とし、タダとタダシの意味用法における相違については説明されていない。また、「文末に、必ずしも特定な言いおさめを求めない」とある。しかしながら、タダシには、(3)や(4)のような文末表現をとるものがあり、これらはタダでは置き換えられない。これらの文末表現をとるタダシについて、どのように説明されればよいのであろうか。

タダとタダシ、それぞれの意味機能を明らかにし、相違について考察したい。

本稿では、タダおよびタダシの前の一文を「前件」とおき、後の文を「後件」とおく。「主題」は、題目化されるもので、取り立て助詞「は」などを伴う場合が多い。そして、第2節においてタダの特徴、第3節においてタダシの特徴について述べ、第4節においてタダとタダシの意味機能と相違について言及したい。

2 タダの特徴

接続詞タダは、大きく二つの意味用法に分けられる。^{注1}一つは(5)のように述部が対立している例で、これをここでは対比型と呼ぶ。

(5) 麺類が好きだ。ただ、うどんは嫌いだ。

対比型はさらに二つに分けられる。一つは、前件で全体を示し、後件でその一部分に限定して、前件と後件で全体と部分の対立をなす場合である。

(6) まず着ていくものだが、あまりくずすのは、かえって不愉快であった。

黒の学生ズボンに、ごくありきたりの半袖のYシャツ、靴はアップシューズをはく。ただ頭にだけ、西部劇に出てくるような、テンガロン・ハットをかぶった。(太郎)

対比型の二つ目は、前件で一属性について述べ、その金体について後件で他の一属性に限定して、前件と後件で二つの属性の対立をなす場合である。

(7) この椅子は色はいい。ただ、デザインがよくない。

以上が対比型で、後一つは(8)のように述部が対立していない型で、ここでは添加型と呼ぶ。

(8) ラーメンが好きだ。ただ、うどんも好きだ。

(8)では、前件の「ラーメンが好きだ」は「他は嫌いだ」という推論を引き起こす。この推論に対して一部に例外をつくろうとして、もう一つ好きなものがあることを付け加えよ

うとする場合である。この場合、前件と後件で述部は共通となる。

対比型の特徴について次に述べる。第一に、タダの前件と後件の主語もしくは主題は共通していなければならない。

- (9) Fさんに関して、私は個人的な事は何も知らない。ただ、この一見童話作家ふうのプロデューサーが、ひたすらラジオとショウビジネスを愛している人物だという事だけは、信じられた。(風に)

第二に、タダの前件と後件の述部は、いくつかのパターンで対立する。存在の有無の対立、肯定・否定の対立、対義的語彙による対立等がある。(10)は存在の有無の対立、(11)は肯定・否定の対立、(12)は対義的語彙による対立の例である。

- (10) 最後に何度も堅く折り重ねた包みがあった。朝出がけに母が黙って手渡して呉れたものである。餞別とも、かよとも書かれていない。

ただ白い和紙の中に五円ある。「こんなに……」重みをたしかめるようにぎんはしばらく手の平に握っていた。(花埋)

- (11) そう思った瞬間に、因数定理がみつかった。どんなときに、どういう状況でひらめいたのかということはまったくおぼえていませんが、ただその瞬間のことは鮮やかに覚えているのです。(記憶)

- (12) あいつは悪いやつだ。ただ、家族にはやさしいようだが。(教師)

第三に、タダの後件では、前件について限定が行われている。これには、全体から部分への限定、一属性から他の一属性への限定の二つのパターンがある。(13)が前者、(14)が後者の例である。

- (13) だがだいたいにおいて信夫をかわいがってくれたから、信夫は祖母がきらいではなかった。ただ母のことを口にする時の祖母だけは、妙に意地悪くていやであった。(塩狩)

- (14) 剣をつかい、棒をつかい、射芸に巧みで、そのいずれもが抜群の若者なのである。ただ、性格が正常ではない。(国盗)

第四に、形式的側面として、後件の限定部分に取り立て助詞「は」や格助詞「が」、「だけは」などを伴う。

- (15) 自由に出掛けられるが、ただ食事の時間は宿舎にいないといけないんだ。(基礎)

次に、添加型の特徴について述べる。第一に、前件と後件の主語もしくは主題は共通していなければならない。

- (16) 彼女は小説をよく読む。ただ、マンガも嫌いではない。

第二に、前件と後件の述部は同一、あるいは同内容である。

- (17) ラーメンが好きだ。ただ、うどんも好きだ。((8)を再掲)

第三に、形式的側面として、後件の、述部が対象とする部分に必ず「も」を伴う。

- (18) (料理コンテストで) Aさんの料理はすばらしい。ただ、Bさんの料理もすてがたい。

第四に、二つの属性については使うことができないが、別の種のものには使える。

- (19) *この椅子は色がいい。ただ、形もいい。

- (20) ラーメンが好きだ。ただ、うどんも好きだ。((8)を再掲)

第五に、上位・下位の関係には使えない。

- (21) *麺類が好きだ。ただ、ラーメンも好きだ。

第六に、述部は状態的である。

- (22) 彼は仕事に精力的だ。ただ、遊びのほうもさかんだ。

3 タダシの特徴

次にタダシの特徴について述べる。

第一に、タダシはタダより文語的である。

- (23) 「名古屋はいかが？」

「大きな田舎町だよ」

太郎はまず、千頭さんの氣にいらぬことを言った。

「ただ、生活は東京よりずっと楽ね。おいしいものもあるし」(太郎)

- (24) 太郎の印象では、親爺というものは、いつも本を読んでいるが、ただしそれは寝転がってである。(太郎)

(23) は、『太郎物語』(宮野綾子)の中の会話文中に現れるタダの例、(24) は、地の文に現れるタダシの例である。このような、『太郎物語』における地の文と会話文のそれぞれに現れるタダとタダシを比較すると、下の表ようになる。

	タダ	タダシ
地の文	8	5
会話文	9	2

タダは会話文、タダシは地の文に用いられることが多い。

以上から、タダシは文語的であるといえる。冒頭に掲げた(2)がタダシに置き換えにくいのは、対話においては、タダシより口語的なタダのほうが用いられやすいからではないかと思われる。

第二に、タダシにおいては、前件と後件の主題は共通しているといえる。

(25) 政府とマスメディアは、それぞれ固有の役割を担っている。取材・報道の自由は最大限尊重されなければならない。ただし、その自由は重い責任を伴っている。正しい報道のためには、多面的な取材が必要だ。(中日970110)

(26) 考古学は推理小説に似ている。与えられた材料を手掛かりに真実に迫っていく。ただし小説と違って終わりが無い。毎年のように思わぬ材料が現れるからだ
奈良県天理市の黒塚古墳から見つかった「三角縁神獣鏡」三十二枚も、そんな材料の一つ。(中日980111)

(25) の前件と後件の主題は「取材・報道の自由」で、(26) は「考古学」でそれぞれ共通である。以上から、タダシは、前件と後件で主題が共通しているといえる。

第三に、タダシは上位・下位の関係に使える。

(27) 夫婦を二十五年間(ただし、ハッピーな夫婦生活を送っているとの条件付き)も続いていると、お互いに、表情の作り方や言動が似てくるので、知らない人でも夫婦であることがわかるようになるのだと解釈されている。(産経980117)

この例では、「夫婦生活」にはいろいろな「夫婦生活」があるので、「夫婦を二十五年間」と「ハッピーな夫婦生活」の関係は、上位・下位の関係に相当する。

(28) また、同誌の閲覧を停止していた福岡市総合図書館など同市内の八つの市立図書館は同日、「掲載記事が明らかにプライバシーを侵害しているとは判断し難い」として、十四日から閲覧を認めることを決めた。ただし、「切り抜きなどの破損を防止するため」(西津勝彦総合図書館図書利用課長)、新刊雑誌用の開架式の書架には置かず、カウンターで管理。(産経980214)

この例では、「カウンターで管理」は、いろいろある「閲覧」の方法の一つであるから、「閲覧」と「カウンターで管理」との関係は、上位・下位の関係に相当する。

したがって、タダシは上位・下位の関係に使えるといえる。

以上のような検討をふまえ、タダは使えないがタダシのみ使える文、タダとタダシの両方が使える文の比較からタダシの特徴を考察したい。

まず、後件が体言であるものについてタダシの特徴を考察する。

(29) 店員募集。ただし高卒以上の男性。(基礎)((3)を再掲)

(29') *店員募集。ただ高卒以上の男性。

(29) は、後件が体言である。そして、前件と意味内容が対立していない。ここでは、前件の「店員募集」から「誰でも良い」という推論をする。この推論と後件の「高卒以上の男性」とが対立しているのである。また、(29') はどうであろう。タダは、第2節で考察したように、後件で一部例外を述べるものである。しかしながら、(29') は、「高卒以上の男性」

がどうであるのか述べられていないし、例外になっていない。「店員募集。ただ高率以下や女性に駄目です」のように、述部を付けて例外をつくるなら、良いということである。

- (30) 母はアメリカの天火を、セコハンで買って来て備えつけていた。

それは、アメリカの料理の本を使って作るには、まことに便利なのだった。

天火内の温度が華氏で示されているからである。

..... (中略)

バター大さじ一ぱい、ケチャップ半カップ、グルタミン酸ソーダーさじを、くちゃらくちゃらとまぜ合せ、二クォート入る平ったいベーキング皿に入れて、三五〇度で (ただし華氏) 一時間四十五分、焼くというわけなのである。(太郎)

- (30') *三五〇度で (ただ華氏)

(30) は、後件が体言である。そして、前件と意味内容が対立していない。ここでは、前件の「三五〇度で」から「撰氏」(普通、日本で考えられるのは撰氏であるから) という推論をする。この推論と後件の「華氏」とが対立しているのである。また、(30') はどうであろう。タダは、後件で一部例外を述べるものであるが、(30') は、「華氏」がどうであるのか述べられていないし、例外になっていない。「三五〇度で (ただ撰氏ではありません)」なら、良いということである。

以上、後件が体言であるものについて、タダシの特徴を考察した。その結果、タダシは述部が無くても良いということがいえる。またこの場合、前件と後件は対立せず、前件から引き起こされる推論部分と対立するということである。

次に、後件の文末に述部が来るものについて考察する。

- (31) 日本在住の中国人女性が「こちらではいい野菜があまり手に入らない。特に薬物の種類が少ないですね」と言っていた。そうかな、と思っていたが、実際に中国の自由市場を見て、納得した。確かに日本より種類が多く、しかも新鮮で安い(大体が日本円で1キロ2,30円)。

ただし中国の市場も80年代までは野菜の種類が少なかったという。すべてが地域主義だったためで、北京など北の地域では冬の野菜は白菜、大根、もやしくらいのもの。(日経980412)

- (31') ただ中国の市場も80年代までは野菜の種類が少なかったという。

- (32) ニホンザルの行動を研究している大阪大学の糸魚川直祐(いといがわなおすけ)教授によると、純粋な野生のサルは人間を襲わない。彼らにとって人間は怖い存在なのだ。

ただし餌(え)付けなどでなれたサルは、平気で近寄ってかみついたりする。こ

の場合も男は狙わない。強い人間かどうか見分けているのだ。(朝日980316)

(32) ただ餌(え) 付けなどでなれたサルは、平気で近寄ってかみついたりする。

(31) は、後件に「少なかったという」という述部、(32) は「かみついたりする」という述部がある。そして、(31) の前件と後件の述部「多く」「少なかったという」は対義的語彙による対立、(32) の「襲わない」「かみついたりする」は肯定・否定の対立をなしている。これらの文は、タダに置き換えることができる。

例文 (31) (32) の考察から、タダシは述部があっても良いといえる。そしてこの場合、後件の述部は前件と対立していなければならない。

以上、後件が体言であるものと後件に述部が来るものの両方から、タダシの特徴について考察した。その結果、次のことがいえる。タダシは、述部が有っても無くても良い。述部のある場合は、その述部は前件と対立していなければならない。そしてこの場合は、タダに置き換えることができる。述部のない場合は、前件と後件は対立せず、前件から引き起こされる推論と対立するということである。述部のない場合は、タダに置き換えることはできない。

4 おわりに

接続詞タダは、前件の一部に例外をつくろうとするマーカーであり、その前件にいろいろのターゲットが存在する。また接続詞タダは、述部を必須条件とし、かつその述部の対立を必須とするが、用法としては、前件と後件で述部が対立する対比型と述部が共通となる添加型とがある。さらに対比型には、全体と部分の対比型と一属性と一属性の対比型がある。添加型は、前件から引き起こされる推論部分と後件が対立するのである。

一方、接続詞タダシは、タダと同じように、前件に例外をつくろうとする意味機能を有している。タダが述部を必須条件とするのに対し、タダシは、述部があってもなくても良いといえる。述部がある場合は、その述部は前件と対立しなければならず、これはタダに置き換えることができる。述部がない場合は、前件と後件は対立せず、前件から引き起こされる推論部分と対立すると考えられる。この場合は、タダに置き換えることはできない。

ところで、副詞タダには、次の例のように用言を修飾する限定の意味用法がある。

(33) 彼女は、理由を聞かれても、ただ泣くばかりだった。

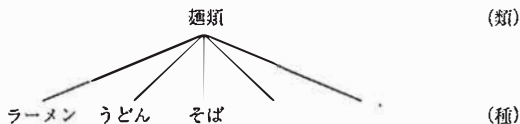
(34) 彼は、目的も無くただ歩いた。

接続詞タダが、述部を必須条件とすることは、このような副詞タダの運用修飾性と連続していると思われる。

注1 タダの用法については、国語学会中国四国支部第47回大会、平成14年度岡山大学言語国語国文

学会で発表した。その内容は、近く発表する予定である。

注2 上位・下位とは、下図のような上位（種類）と下位（ラーメン、うどん、そば……）の関係のことである。



参考文献

- 沖裕子 (1998) 「チャレンジコーナー」『月刊言語』27-9、27-10 大修館書店
—— (1995) 「接統詞「しかし」の意味用法」『日本語研究』15 東京都立大学国語学研究室
グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
田中章夫 (1984) 「接統詞の諸問題—その成立と機能—」『研究資料日本文法第4巻 修飾句独立句編
副詞・連体詞 接統詞・感動詞』明治書院
—— (1987) 「対義構造の性格」『日本語学』6-6 明治書院
仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
村木新次郎 (1987) 「対義語の輪郭と条件」『日本語学』6-6 明治書院
森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』角川書店
横林宙世・下村彰子 (1988) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ6 接続の表現』荒竹
出版
吉川武時 (1989) 『日本語文法入門』アルク

使用テキスト

- 五木寛之『風に吹かれて』新潮文庫 CD-ROM 版 (風に)
司馬遼太郎『国盗り物語』新潮文庫 CD-ROM 版 (国盗)
宮野綾子『太郎物語』新潮文庫 CD-ROM 版 (太郎)
三浦綾子『塩狩峠』新潮文庫 CD-ROM 版 (塩狩)
渡辺淳一『花埋み』新潮文庫 CD-ROM 版 (花埋)
山田洋次『男はつらいよ』松竹映画台本 CD-ROM 版 (寅さ)
千葉康則『記憶の脳生理学』講談社 CD-ROM 版 (記憶)
朝日新聞 CD-ROM 版 (朝日)
産経新聞 CD-ROM 版 (産経)
中日新聞 CD-ROM 版 (中日)
日本経済新聞 CD-ROM 版 (日経)

なお、出典名の明記されていないものは作例である。

(たかいち ひろこ 岡山大学大学院文学研究科)